



Inajin

埼玉県立伊奈学園総合高等学校 同窓会会報誌

CONTENTS

01 | 先輩たちのイナガク*スタイル

山岸 正幸さん / 井上 つかささん
乾 理さん / 中村 織雄さん

02 | 同窓会より

同窓会会長より / Information

vol. **23**
2007 Spring

先輩たちの イナガク*スタイル

#01

営業マンから、理学療法士に転身 天職にめぐり合えた気がします



理学療法士
山岸 正幸さん
[4期・871A・人文]

やまざし・まさゆき

さいたま(旧・大宮)市立南中学校→伊奈学園→日本大学。住宅メーカーを経て、理学療法士の資格を取得。
現在は国立病院機構 高崎病院 リハビリテーション科勤務。06年に結婚し、1児の父。

大学卒業後、最初に就職したのは大手住宅メーカーでした。営業担当として3年間勤務したあと、自分の将来を見つめ直すために退職。しばらくの間、埼玉県内のスポーツ施設でアルバイトをしました。そこでは怪我をした人のリハビリなどを手伝う仕事を経験したのですが、この仕事を通して人の役に立つ充実感を実感し、自分の進むべき道が見えたような気がしました。理学療法士になって、本格的にこの道を究めてみたいと思ったんです。

理学療法士の仕事は、お年寄りや事故にあった人などが負った身体の障害の回復をサポートをすること。資格を得るためには、専門の教育機関で学んだあと、国家試験に合格しなくてはなりません。私はアルバイトを続けつつ、1年間を受験勉強に費やしました。高校時代には選択しなかった科目も勉強しなくてはならなかったもので、かなり大変な思いもしましたが、翌年には専門学校に合格できました。

3年間の勉強のうち、国立病院に理学療法士として採用されました。今は群馬県高崎市にある病院に勤務して5年目。だいぶ回り道をして今の職業に就きましたが、ようやく一通りの仕事をこなせるようになり、充実した毎日を送っています。今思うと、高校のときはひたすら楽しく遊んでいましたね。クラスメイトと毎日のように野球をしたり、スキー部の合宿に行ったり……。ただ、もう少し勉強しておけばよかったな、とも思います。20代の半ばで受験勉強をすることになったときに痛感しました(笑)。

父が鉄道好きだったこともあって、昔から家族そろって電車で出かけることも多く、私にとって鉄道は常に身近な存在でした。鉄道に関わる仕事に就くことは幼いころから漠然とした夢として持っていました。高校時代には具体的な「進路」として考えるようになり、「社会の役に立つ仕事に就きたい」という思いと、鉄道の仕事が合致したんですね。

短大卒業後、念願がかなってJR東日本に入社。最初の1年半は駅の窓口で切符の販売を担当しました。その後、車掌試験に合格して今に至ります。車掌に必要な知識は多岐にわたるうえに、安全な電車運行のためにはどれも欠かせない知識ばかり。覚えるのはとても大変でしたが、必死に勉強しました。もちろん今でも、毎日が勉強の連続です。車掌になって今年で3年目になります。鉄道の安全安定輸送を担う一員であることに誇りを感じると同時に、お客様の命を預かる責任の重さも痛感しています。

忙しい毎日が続いています。休みの日には高校時代の友人と会うこともあります。仕事柄、緊張感に満ちた時間を過ごすことが多いので、気心知れた友人と会うとリラックスできるんです。伊奈学時代の友人は、遊び仲間でもあり、相談相手でもあり、お互いに励ましあえる存在でもあります。私の一生の宝物ですね。

卒業生の皆さん。将来の目標が決まっている人も、そうでない人も、時間はまだまだたっぷりあります。いろいろな経験を通して、本当に自分がやりたいことを見つけてください。伊奈学の先輩が、鉄道の仕事に就いてくれたら嬉しいかな。最近では女性の車掌や運転手も増えていきますから、興味のある女の子はぜひ挑戦してみてくださいね。

#02

誇りと責任を感じながら 車掌としての職務を全うする毎日です



いのうえ・つかさ

蓮田市立蓮田中学校→伊奈学園→成城大学短期大学部。
現在は東日本旅客鉄道株式会社 宇都宮車掌区所属。自宅のある蓮田から勤務地の宇都宮まで通勤する毎日にも、「もう慣れました」と笑う。

東日本旅客鉄道株式会社 車掌
井上 つかささん
[15期・985K・人文]

現在、さまざまな分野で活躍する先輩たちもかつてはみなさん同様期待と不安を胸に、伊奈学園を卒業しました。そして自分の道を切り拓き、それぞれの『イナガク*スタイル』を表現し続けています。そんな先輩たちからの熱いメッセージをお届けします。

これからの貴重な数年間を大切に
旅に出ることをオススメします



総合商社営業職
乾理さん
【7期・906A・理数】

いぬい・まさし

橘川市立加納中学校→伊奈学園。
現在は三井物産マーケティング株式会社
コンシューマーブランド事業部に所属。高
校時代は音楽部でテナーのバートリーダー
を担当。07年1月に誕生した1児の父。



伊奈学園では理数系でした。将来はエンジニアか研究者にでもなるのかな、と漠然と考えていたのを覚えています。実際、進学した大学も工学部。ところが、大学時代に経験したアルバイトが人生の転機になりました。

アルバイト先は日本最大のテーマパークでした。ここで接客業の面白さ、奥深さに気づいたんです。結局そのまま就職し、接客のほか、新施設の立ち上げなどにもかかわりました。その後、ここでの経験を買われて総合商社から声がかかり転職。今は商社の営業マンです。

現在の仕事の内容は、輸入家電製品を日本で販売するためのマーケティング営業。テーマパー

ク時代に培ったコミュニケーションスキルと企画力が役に立っています。仕事はハードですね。西日本全域が担当エリアなので、稼働日の半分以上が出張の連続です。海外に行くこともあります。大変なことも多いですが、良い仕事仲間にも恵まれていますし、やりがいがあると思います。

高校では音楽部に所属し、毎日楽しく過ごしていた記憶があります。当時の友人の何人かとは今でも交流がありますよ。高校時代は将来こうして日本中を飛び回ることになるなんて想像もしませんでした。伊奈学園の、自由で柔軟性のある校風が、予想外の人生を違和感なく受け入れられる土壌を作ったのかもしれないね。



卒業生のみなさんには、これからの数年間を大事に使ってもらいたいと思います。オススメは、世界を旅すること。生の外国語、外国文化に触れることは、必ず将来の役に立ちます。いずれ結婚したらそんな自由時間はなくなりませんが、今のうちにね(笑)。

失敗を恐れない勇気を胸に
本当にやりたいことを見つけてください



陶芸家
中村 織雄さん
【1期・844A・美術】

なかむら・おりお

羽生市立東中学校→伊奈学園。初代美術部部長。多摩美術大学卒業後、熊谷窯で修業のち独立。
現在は地元・羽生などで陶芸教室を開きながら、個展も開催するなど、陶芸家として精力的に活動中。



今から20年以上前、私がまだ開校していなかった伊奈学園に進学を決めた理由は、美大に進みたかったから。当時、公立高校で美術の専門的なコースのある学校は少なかったですから、魅力的だったんです。ただ、入学してみたら美術棟が完成してなくて、設備も全然そろっていません(笑)。そういう一期生ならではの苦労も経験しました。いや設備面で他校からうらやましがられる伊奈学園も、最初は大変だったんですよ。

高校卒業後は美大に進学できましたが、受験の際にテクニク重視で絵を描き続けるうちに、本当に自分は絵が好きなのかわからなくなっていました。また、進学

後も絵で生活をしていくことの難しさを感じるようになり、大学2年次で陶芸専攻を選択。そこで陶芸の楽しさを知りました。大学を卒業してから7年間、陶芸家の師匠の下で学び、00年に独立しました。今は自分の作品を作りつつ、陶芸教室などで陶芸の楽しさを伝える活動もしています。絵には完成がありませんが、陶芸は焼きが終われば作品が完成します。そこで得られる達成感こそが一番のやりがいですね。また、実際に作品を使ってもらったことで、手作りの味わい、ぬくもりを感じてもらえることもやりがいのひとつです。もちろん100%納得いく作品はそう簡単にはできません。少しでも理想に近づけようという作業の難しさが、陶芸の面白さでもあるのですが、後輩のみなさんには、若いうちに多くの失敗を経験してほしいです。失敗を恐れていては何も得られないし、何も見えてきません。失敗することで自分自身と向き合えれば、本当にやりたいことが見えてくるはずですよ。これ、陶芸と一緒にですね。



「未来への誓い」

伊奈学園総合高校 同窓会会長
金子桂一 [3期]

最近、「格差」という言葉を耳にしない日はありません。古くて、新しい言葉。私が思うのも、浪人時代、予備校教師に勧められて『新・階層消費の時代』（小沢雅子著）を読んだからです。この本はバブル真っ盛りの89年、日本は将来、格差社会になると予見していました。

たった1冊の本との出会いから、もの見方を鍛え、多くの人や時代とかわろうと思えました。そしていま、新聞記者という天職につながっています。

なにかきっかけとなって、人生が開けるのか、わかりません。ただ、ひとつ確実なのは、未来への誓いを立てたのは、伊奈学園の卒業式だったことです。今日の思いの延長線に、あなたの未来がつながっていくはずですよ。卒業、おめでとう。

Information

同窓会より

01 会報誌「INAJIN」送付のご案内

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございませう。みなさんは本日より、伊奈学園同窓会の会員になります。会員の方のお手元には毎年秋に、同窓会より会報誌「INAJIN」が送付されます。各界で活躍されるOB、OGの情報、母校・伊奈学園のトピックス、同窓会の活動内容など、情報満載の会報誌です。同窓会では、この会報誌を、卒業生と母校をつなぐ「コミュニケーションツール」として充実させて参ります。ご期待ください。

02 同窓会ウェブサイトへのアクセス

伊奈学園同窓会では、ウェブサイトを開設しています。同窓会からの連絡や住所などの登録／変更フォーム、卒業生が運営するウェブサイトへのリンクなどが掲載されています。同窓会へのメールもこちらから受け付けております。URL <http://inagakuen.on.arena.ne.jp/>

03 住所変更などはお早めにお知らせください

お引越し、転勤などで連絡先が変わった場合は、お早めに同窓会までお知らせください。また、電子メールアドレスの変更の際も、お知らせいただくと幸いです。

04 個人情報の取り扱いについて

同窓会では会員のみなさんの連絡先（住所、電話番号、メールアドレス）などの情報を名簿にまとめて保管しています。これらの情報は個人情報保護の観点から一般には公開されず、同窓会の活動にのみ利用されます。

＜名簿情報の利用例＞

◎会報誌の送付
登録された住所に会報誌「INAJIN」を送付します。

◎クラス会の呼びかけ

HR代表（HR理事）に対して該当HRの会員の連絡先を開示します。（準備中）

◎電子メールによる連絡

クラス会開催の呼びかけなど、電子メールを用いて行います。（準備中）

名簿に登録される情報は「非公開」とすることもできます。同窓会ウェブサイトの「住所等の登録／変更」アドレス
<http://inagakuen.on.arena.ne.jp/formone/formmail.html>

から登録してください。非公開の場合、個人情報保護の観点から個人情報はHR理事に対しても公開されません。詳しくは同窓会ウェブサイトの同ページにある「登録情報の扱いについて」をご覧ください。

Inajin
vol.23

STAFF

Editor in Chief：原 雅之（1期・844A・美術）
Editor / Writer：溝口敏正（4期・871A・語学）
Art Director：町田えり子（7期・905C・美術）

発行／伊奈学園同窓会
編集／会報誌編集委員会
印刷／株式会社 新晃社

©Inagakuen Dousoukai 2007 掲載されている記事・写真等一切の権利は伊奈学園同窓会または原作者者に帰属します

お問い合わせ

Mail ina-doso@inagakuen.on.arena.ne.jp
Web <http://www.inagakuen.on.arena.ne.jp/>